

いのちの巡礼（スール ゴッツォーネ）

巡礼は、文化や時代を超えた人間の存在の深く普遍的なメタファー（隠喩）として私たちに示されます。サンチャゴ・デ・コンポステーラの途上にあるブルゴスの小さな村、ホントナスは、この経験を生きる素晴らしい場所になりました。何世紀にもわたる歴史を持つフランス人の道には、世界中から数え切れないほどの人が巡礼にきました。それぞれのそしてしばしば表現できない各自の理由でやってきました。しかし、彼らには1つの共通点があります。それは、自分自身の深みにつながり、同時にそれらよりも大きな何かにつながりたいという願望、超越への特別の願望です。

カミーノ（サンチャゴ・デ・コンポステーラ巡礼）について言いたいことがたくさんあります...私は簡単にそれらのいくつかを思い浮かべられます。イエズス会のフェリックス・レビラの物語に基づいて、私はそれらのいくつかを簡単に思い出します。

巡礼することとは、日常生活の習慣とから離れることでもあります。巡礼者は、大抵の場合、彼が縛られている「鎖」から自分自身を解放し、日常生活のシンプルさの中で新しい形の自由を発見します。歩くことが中心的な目標となり、そして日々の目標達成のために、移動し、水分補給し、食事し、休息場所を見つけることなどに集中するようになります。このように本質に立ち返ることで、カミーノでは散心や物質的な心配事を手放すことができ、逆説的ではありますが、深く豊かに思える厳格な生活様式に触れることができます。

カミーノのもう一つの貴重な特徴は、人間関係の脱階層化です。巡礼者は、日常生活で自分たちを規定している役割や偏見を捨てます。ここでは、誰もが平等です。ビジネスマンも、学生も、司祭も、教師も、同じ道を歩み、同じ悩みを抱え、同じ痛みを抱えています。この平等と友情の雰囲気は、自由で誠実で、通常の社会的な隔てから解放された人間関係を育みます。レッテルを貼られることなく、ただ一人の人間でいられる機会は、現代の生活ではめったにない贈り物です。

巡礼者の経験において、物質的な離脱も基本的な役割を果たします。リュックサック、できれば軽いリュックサックに、生きていくための必需品を入れて歩きます。この意識しつつ選んだ簡素さは、カミーノと地球を尊重する持続可能な生活様式との結びつきを強調しています。

さらに、カミーノは巡礼者の身体的な限界に挑むだけでなく、深い内省をもって自分自身に立ち向かいます。長時間の歩行は、内省し、恐怖、疑問、欲望に立ち向かうための貴重な時間を提供します。肉体的な痛み、疲労、逆境は、自分を超越する能力、つまり、快適な日常に眠っていることの多い隠れた可能性を発見する機会となります。

カミーノはまた、自然に浸る体験でもあり、都市化された世界ではますます希薄になっている創造物に再びつながることでもあります。移り変わる風景、パノラマの景色、絶え間なく

存在する自然環境は、瞑想と驚嘆のための理想的な舞台となります。それは、私たちが日常生活で忘れがちな世界の美しさと壮大さを思い出させてくれます。

最後に、カミーノは超越への旅でもあります。体験のシンプルさと余分なものからの分離の中で、神との出会い、または各巡礼者が神聖と考えるものとの出会いのためのスペースが開かれます。今こそ、視線を上げ、感謝を捧げ、外と内なる旅に意味を見出す時です。

このような特徴を持つカミーノのような特別な体験は、すでに何人かの姉妹たちによって行われていました。そして、2014 年管区会議のミッションに関する考察の一環として、私たちは夏に新たなミッションを共に遂行する可能性を検討しました。ある姉妹は、サンティアゴの巡礼路のどこか終わりの方で、巡礼者を迎え、サポートし、手助けする活動を行うことを提案しました。それを希望する巡礼者のためにです。開放された教会(カミーノではそうでない教会も多い)と、キャンプを張る場所が必要でした。

何人かの姉妹たちの働きのおかげで、次の夏、私たちのミッションの場として理想的な場所を見つけました:前述の小さな村、ホンタナスです。私たちは本当に何ができるのかわからないまま 4 人の姉妹から始めましたが、ミッションはあっという間に形になりました。多くの知識や資源は必要ありません。

私たちの提供するもの:

- 「彼らの状況に合わせて出かける」ことができるガイド付きの祈り
- 旅の疲れを癒すフットマッサージ
- 爽やかな飲み物の提供
- 自発的な個人またはグループ対話の機会
- 一日を締めくくる瞑想的な祝福のダンス

これらの行為の一つ一つは、それがどんなに小さく見えても、それを受け取る人にとっては計り知れない意味を持ちます。

巡礼者たちとの経験は、私たちを驚きと喜びで満たす発見でした。不思議なことに、この道が彼らにとって象徴するものは、結局のところ、私たちにとっても同じような経験になります:

- 平凡な生活から一歩踏み出し、私たちの日常生活を構成するあらゆるものの片隅で生活すること。
- 普段一緒に生活することのない、時には知らない信徒たちと一緒に住んでいない姉妹と共に生活していることに気づくこと。
- 巡礼者たちと生活、作業、祈り、そして何よりも存在を分かち合うこと。

これは、カミーノを旅していることで人生の「特別な」瞬間を迎えている見ず知らずの人々と接触することを意味します。その人たちは、何らかの形で、自分が経験しているこ

とを分かち合い(自分自身を見つけるために時間を割いているため、時にはこれまで経験したことのないほど深く)、誰かに話を聞いてもらい、時には自分の状況、発見、悲しみや喜び、願望や計画について話すことを必要としている。

ある日の午後に出会った人たちとの間に絆が生まれ、おそらく二度と会うことはないだろう。

「実」を結ぶことなく、プロセスもなく、フォローアップもないミッションは、その場限りの出会いに過ぎず、それによって起こるコミュニケーションによって、時には非常に激しくなることもあるが、そこで終わります。

しかし、むせび泣く人、韓国語からスペイン語に翻訳するために翻訳機と話す必要がある人、そして「ありがとう、本当にありがとう、私の足を揉んでくださるのはイエス様だと感じています」という言葉を微笑みながら見せてくれる人のことを思い出すと、期待をはるかに超えたものです。そして私たちは、私たちの言語的・文化的な限界や障壁をすべて超えて、私たちが兄弟姉妹であり、意味を探し求める旅人であり、互いに、そして私たちの世界を大切にする責任があることを知り、感じるができる、聖霊の力強い臨在の瞬間を体験します。